

**令和４年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 宇多津町（都道府県：香川県）

1.当該地域の情報（令和5年1月現在）

地域の課題	【宇多津町日本語教育に関する課題】 ① 日本語教育環境整備に関わる既存サポーターの継続的育成、新規サポーター確保と養成 ② 日本語教育を必要とする外国人住民の実態把握 ③ 日本語教育を必要とする外国人住民を抱える企業・団体との連携 ④ 日本語教師・講師（人材）及び教室運営に伴う費用（財源）の確保 ⑤ 地域住民が日本語教育を理解し、協力してもらえる環境整備と、その機会の提供
在住外国人数 外国人比率	609 人 3.3%
在住外国人の 状況	【主な国籍と人数】※上位 10 件まで ベトナム 168 人、フィリピン 116 人、インドネシア 86 人、中国 80 人、ミャンマー64 人、韓国 18 人、カンボジア 16 人、バングラデシュ 11 人、インド 8 人、ブラジル 7 人、ペルー7 人、 【在留資格】※上位 10 件 技能実習 1 号口 150 人、永住者 101 人、特定技能 1 号 98 人、技能実習 3 号口 50 人、技能実習 2 号口 48 人、技術・人文知識・国際業務 25 人、日本人配偶者等 25 人、留学 20 人、特定活動 16 人、定住者 15 人、特別永住者 15 人 【滞在年数・在留期間などの状況】 長年にわたって、ベトナム、フィリピン、中国が上位だったが、近年インドネシアの方の増加が著しい。また、技能実習生の割合が最も高く、43.5%となっている。
在住外国人の 日本語教育の現状	①技能実習生 所属している組合や会社での日本語研修、または、県国際交流協会や隣市（坂出、丸亀）が行う日本語教室に通学。宇多津町日本語教室、国際交流会主催の日本語サロンを利用する等、学習者が徐々に増加している。 ②特別永住者・永住者 大半は特に何も学習していない人が多い。現状、仕事に追われ、日本語学習の時間が足りない。 ③留学生（町内にある香川短期大学生） 日本語習得済で留学しているが、それ以上のレベル習得を希望する場合は、県国際交流協会や隣市（坂出、丸亀）が行う日本語教室に通学している。 ④町内の学校等の施設に通う外国人子女 町教育委員会が小中学校の外国人児童・生徒への学習支援として母語・日本語指導員を派遣している。2022 年 4 月より宇多津小学校内に国際教室を設置し、グローバル教育の強化に取り組んでいる。

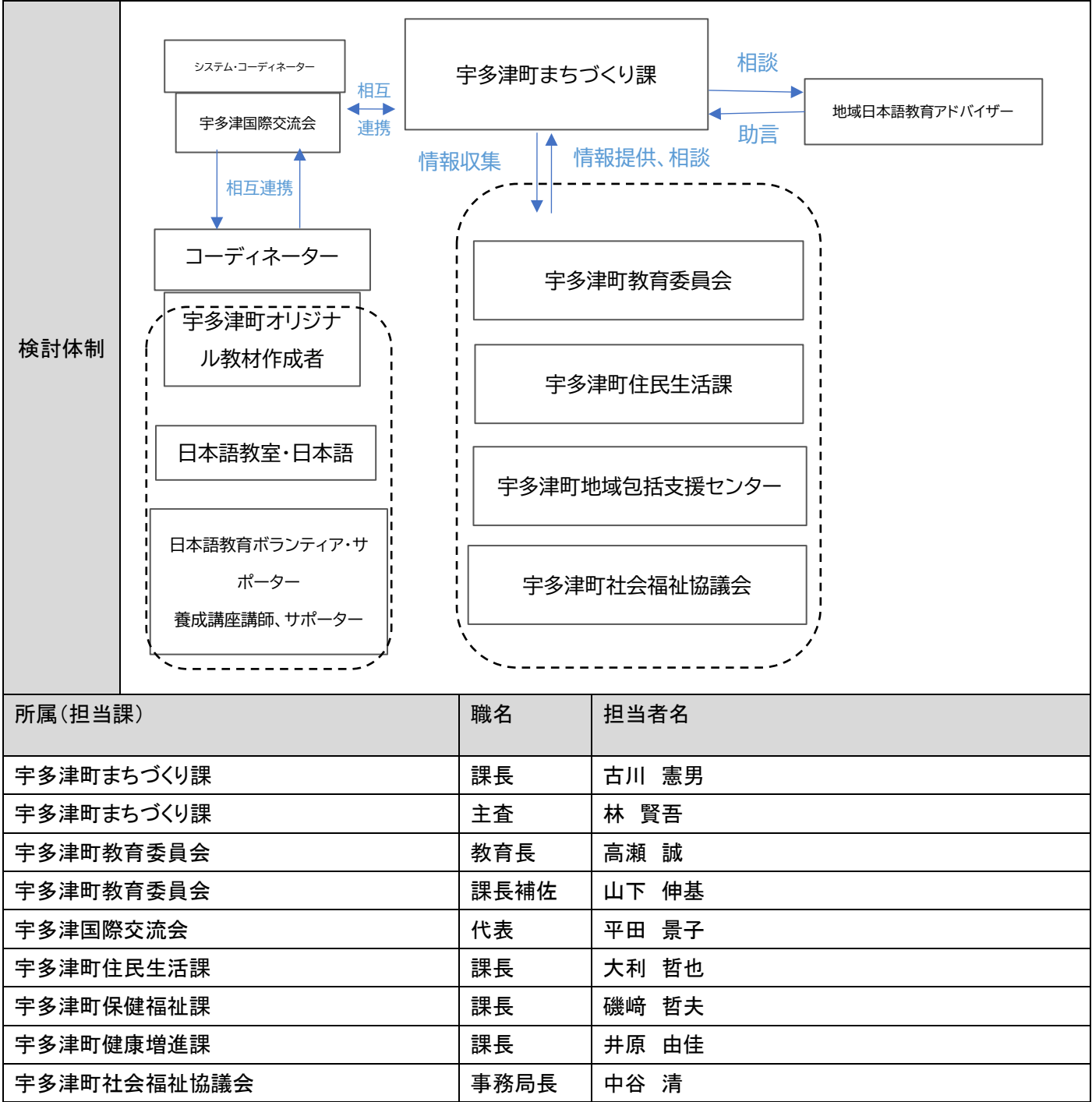
2.事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	生活や教育に関する相談件数も増えており、多文化共生に対する当町職員の意識向上、人材育成及び住民の理解と協力を得られるよう、本事業を活用し、国籍を超えての住民サービスの提供と向上、災害発生時などに備える防災対策の強化、日本語教育環境整備と拠点づくりを実現し、まちの活力や革新、創造、成長の源泉とすることを目的とする。			
事業の概要	【事業実施における目標】 1)日本語教育環境の充実と日本語教室の自立に向けた体制づくり 2)運営サポーターの育成および強化、自立に向けてのリーダー専任、「やさしい日本語」指導者養成講座開講と既存指導者強化、自立に向けての指導者登録制度の構築 3)外国人住民の情報収集、実態把握 4)県および協力団体との関係構築、連携強化 5)ヒト(サポーター・講師等)・コト(教室運営)のより一層の充実と教育環境の自立に向けた取り組みの推進 【年間スケジュール】 ①日本語教室試験的開講（7月～12月の金曜日・日曜日・各15回） ②アドバイザー・コーディネーター会議（年3回オンライン / 7月、11月、1月） ③検討体制会議（毎月） ④教室サポーター勉強会（年2回 / 9月、12月） ⑤町職員および関係者向け研修：多文化共生に向けた取り組み、窓口対応など（1月） ⑥地域住民に向けた事業紹介・報告会及び多文化共生セミナー：町民の意識啓発、在住外国人との交流に繋げる（2月） ⑦外国にルーツがある児童、生徒、保護者に対するヒヤリング、ニーズ調査(8月) ⑧先進地視察(岡山) ⑨外国人住民のニーズ把握・分析、実態調査、ネットワーク形成			
事業の対象期間	令和4年7月～令和5年3月			
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	・日本語教室の試行 ・アドバイザー・コーディネーター会議の開催 ・日本語教育ボランティア・サポーター養成講座の実施			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	山下 直子	香川大学教育学部	教授	日本語教育・教室開設企画立案、運営管理 サポーター養成講座・研修企画立案、指導
	平田 景子	宇多津国際交流会 香川県教育委員会	代表 日本語教育支援員(宇多津小学校、北小学校)	全体調整、教室に関わる各種企画立案 教育環境整備、事業運営
	山田 佐知子	宇多津町教育委員会 香川県国際交流協会	日本語教育支援員(宇多津小学校、中学校) 通訳ボランティア	管理・運営・調整全般 広報(地域住民への事業紹介、報告) 本事業に関わるセミナー企画、運営
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	山田 泉	-	元法政大学教授	継続・新規(3年目)
	中東 靖恵	岡山大学大学院 社会文化科学研究科	准教授	継続・新規(3年目)

	財部 仁子	神戸 YMCA 学院専門 学校日本語学科	専任講師	継続・新規(3 年目)
--	-------	-------------------------	------	-------------

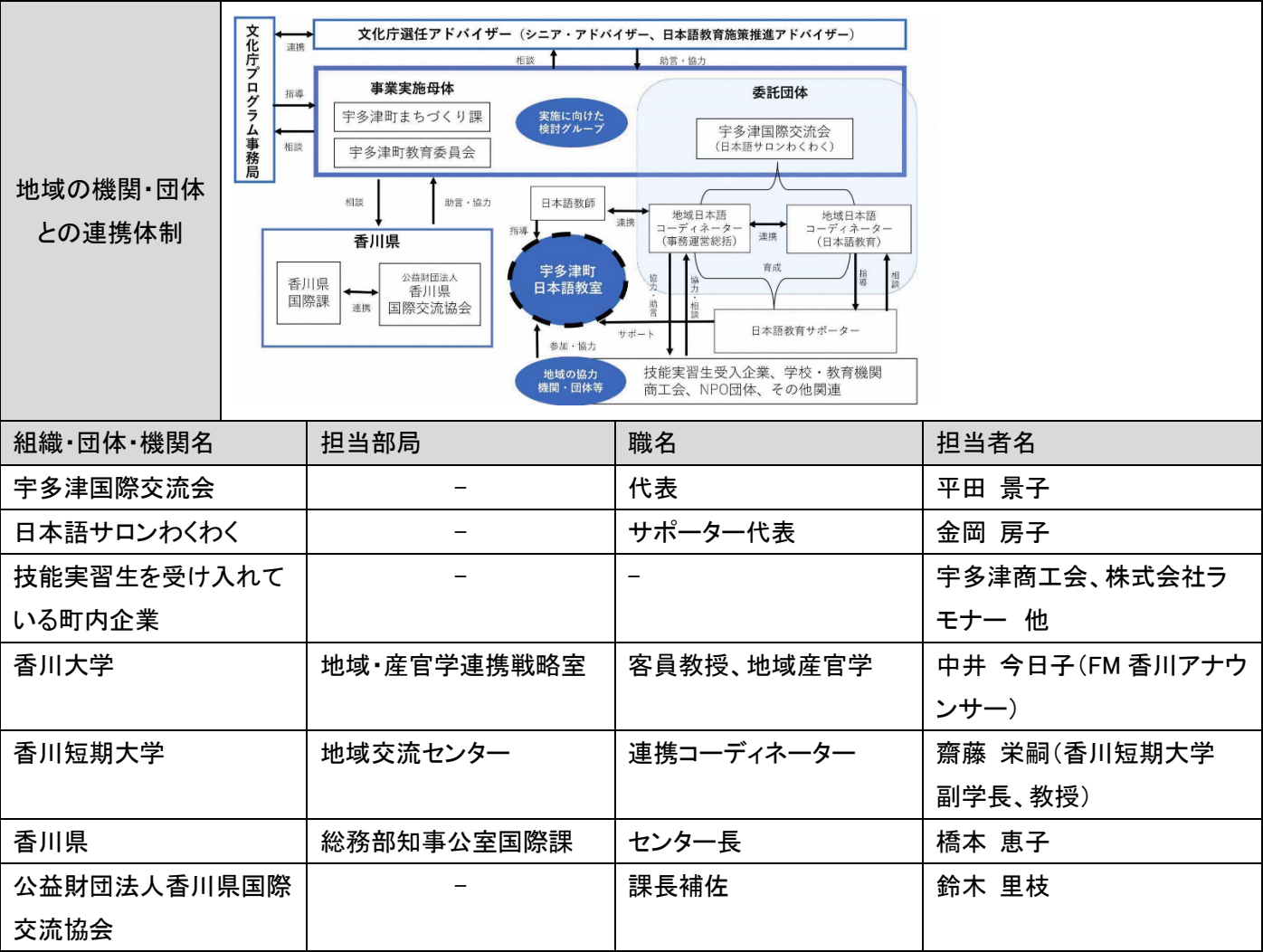
3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



--	--	--	--	--

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和 4 年 4 月	事業計画案作成	事業計画案作成協力	
令和 4 年 5 月	事業計画案作成	事業計画案作成協力	
令和 4 年 6 月	文化庁オリエンテーション (オンライン)	文化庁オリエンテーション (オンライン) 出席	
令和 4 年 7 月	・キックオフ会議 ・検討体制チーム会議 ・コーディネーター連絡会	・キックオフ会議出席 ・検討体制チーム会議出席 ・コーディネーター連絡会出席	山田 AD、財部AD、中東AD: キックオフ会議 (オンライン) にて、事業計画確認いただいた。
令和 4 年	・検討体制チーム会議	・検討体制チーム会議出席	

8 月	・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日)	・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営	
令和 4 年 9 月	・検討体制チーム会議 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日) ・実施団体情報交換会	・検討体制チーム会議出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営 ・実施団体情報交換会出席	
令和 4 年 10 月	・検討体制チーム会議 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日) ・教室サポーター勉強会	・検討体制チーム会議出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営対応 ・教室サポーター勉強会準備・運営	
令和 4 年 11 月	・検討体制チーム会議 ・コーディネーター連絡会 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日) ・アドバイザー視察	・検討体制チーム会議出席 ・コーディネーター連絡会出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営	中東AD:11/18 日本語教室視察
令和 4 年 12 月	・検討体制チーム会議 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日) ・教室サポーター勉強会	・検討体制チーム会議出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営対応 ・教室サポーター勉強会準備・運営	
令和 5 年 1 月	・検討体制チーム会議 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・コーディネーター連絡会 ・日本語教室(金・日) ・町職員研修	・検討体制チーム会議出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・コーディネーター連絡会出席 ・日本語教室準備・運営 ・町職員研修準備・運営	
令和 5 年 2 月	・検討体制チーム会議 ・町職員・教職員ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室(金・日) ・日本語教育公開フォーラム「地域の日本語教室の役割」	・検討体制チーム会議出席 ・町職員・教職員等ヒヤリング、ニーズ調査 ・日本語教室準備・運営 ・住民向けシンポジウム準備・運営 ・日本語教育公開フォーラム「地域の日本語教室の役割」準備・運営	・山田AD:2/17 日本語教室視察 ・山田 AD、財部AD、中東AD: 宇多津町日本語教育公開フォーラム「地域の日本語教室の役割」出席 (山田AD: 基調講演) (山田 AD、財部AD、中東AD: トークセッション参加)
令和 5 年 3 月			

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	宇多津町日本語教室						
外国人参加者について	[国籍]インドネシア21名、フィリピン13名、スリランカ8名、中国7名、ベトナム5名 [属性]技能実習生や生活者(定住者等)が主な対象						
参加者数 (内 外国人数)	受講者54名 支援者56名(外国人0名) (日本語指導者15名、サポーター41名)						
開催時間数	総時間70時間			内訳 3時間×14回 2時間×14回			
目標	・日本語を使って、生活上での様々な行為や意思疎通ができるようにすること。 ・日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること。 ・日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること。 ・日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること。 ・日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	8月5日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	2	講義	・名前を覚える(ゲーム) ・共通しているものを探す等	日本語指導者1名 サポーター3名
2	8月7日(日) 10:00~12:00	2	町保健センター	5	講義	宇多津太鼓台保存会の協力の下、和太鼓体験	サポーター1名
3	8月19日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	2	講義	・あるなしクイズ ・SDGSについて	日本語指導者1名 サポーター2名
4	9月2日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	1	講義	・自己紹介 ・挨拶 ・香川県に来た理由 ・どんな色が好き?(消しゴム等を用いて)	日本語指導者1名 サポーター2名
5	10月21日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	2	講義	ハロウィンにちなんだ言葉等	日本語指導者1名 サポーター2名
6	11月20日(日) 10:00~12:00	2	町保健センター	7	講義	【小豆島町とのオンライン日本語教室】 ・自己紹介 ・写真や動画を使っの町の紹介	日本語指導者1名 サポーター1名
7	1月8日(日) 10:00~12:00	2	町保健センター	4	講義	書初め	サポーター1名
8	1月20日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	2	講義	・ことわざかるた ・「時間があるときにお問い合わせます」の使い方・言い方等	日本語指導者1名 サポーター3名
9	1月22日(日) 10:00~12:00	2	町保健センター	5	講義	・言葉あそび	サポーター1名
10	2月3日(金) 18:00~21:00	3	町保健センター	2	講義	・鬼の角づくり、お面づくり ・節分について	日本語指導者1名 サポーター3名

※上記は、全28回開催した日本語教室のうち代表的な10回分を記載しております。

【主な活動】



10/21 日本語教室の様子
ハロウィンにちなんだ言葉
等について学びました。



11/20 小豆島町とのオンライ
ン日本語教室の様子。
写真は、小豆島町とのオンラ
イン接続を前に、自己紹介、
町の紹介をしている様子。



1/8 日本語教室の様子。年
明けということで、書初めを
行いました。

教室の立ち上げに 係る問題とその対 応策	教室が外国人住民に十分に認知されていない状況があるため、町の媒体やメディア、SNS 等 を活用して、広報・情報伝達等の活動を行っていききたいと思います。
----------------------------	---

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
教室サポーター勉強会	令和4年10月、12月(全2回)	日本語教室での活動を前提とし、教室の準備や授業、イベント等運営のサポートが出来る方の養成を目的とした研修を実施しました。 【内容】(全2回、1回2時間) 第1回(R4.10.8) ・宇多津町日本語教育事業の進捗状況と今後の取り組みについて 等 第2回(R4.12.10) ・みんなで考えよう！宇多津の多文化共生 ・学習者に合わせた教材づくり 等
日本語教育公開フォーラム「地域の日本語教室の役割」	令和5年2月18日	3年間の事業報告を兼ねて開催し、山田ADによる基調講演(「地域日本語学習支援の場から考える『共生社会』～ともに学び、ともに変わる～」)の後、「宇多津町における地域日本語教育のこれから」をテーマに、山田 AD、財部AD、中東AD、山下講師、神原講師、町まちづくり課長によるトークセッションを行いました。

【主な活動】



12/10 教室サポーター勉強
会にて、神原先生が学習者
に合わせた教材づくりをテ
ーマに、日本語教室で使
用する教材の紹介を行った
後、教材の作り方について
ワークショップ形式にて説
明を行いました。



日本語教育公開フォーラム
「地域の日本語教室の役割」
での山田ADの基調講演の
様子。



日本語教育公開フォーラム
「地域の日本語教室の役割」
でのトークセッションの様子。

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画に沿って進めることができました。
事業推進にあたり問題点と対応策	特にありませんが、今後もコロナ等の影響で、施設を使用できなくなり、対面での教室開催ができなくなることが予想されますので、SNS を活用した情報発信、共有、相談に応じる等行い、継続的にコミュニケーションを図っていきたいと思います。
成果	参加者の国籍は、インドネシア・フィリピン・スリランカ・中国・ベトナムとなっており、少しずつではあるが日本語教室が日本人を含めた交流の拠点になってきています。
地域の関係者との連携による効果	企業・教育機関との連携やボランティア・サポーター研修会を通して、日本語教育や多文化共生に関心がある協力者や人材を発掘することができました。
コーディネーターの主な活動	①ニーズの調査(77.5H) ②体制整備のための調整(53H) ③人材育成のための調整(27.5H) ④日本語教室開設及び運営のための調整(90.5H) ⑤その他(17.5H) (具体的な内容:2/18 日本語教育公開フォーラム「地域の日本語教室の役割」についての打ち合わせ等)
アドバイザーの主な助言	いただいたアドバイスの中で「ニーズ調査等で地域住民、外国人住民の現状や意見を聞き、宇多津町らしいモデル構築を目指すこと。」「一部の人だけが、日本語教室に関わっていることが多いが、関わっている人たちだけで考えるのではなく、地域全体を巻き込んだ取り組みが必要。」といったものが今後、持続的な日本語教室の運営を行っていく上で、キーワードになってくるのではないかと感じています。
今後の課題	外国人住民が増加するにつれて、ごみの分別、交通ルール、災害時の対応及び役場から送付される行政文書等、日本で生活していく上で必要な日本語が分からないといったケースが増えています。その一方で、技能実習生は、在留期間が限られていることもあり、同国人のコミュニティで生活している方も多く、日本語の学習意欲が乏しい方も少なからずいるという現状があることも分かりました。 また、技能実習生を多く抱える一部の企業は、外部の講師に依頼するなどして、独自に日本語指導を行っており、十分な学習機会を得ている方もいますが、学習機会が不足している永住者・定住者等の生活者も多くおられます。学習意欲の乏しい方も含めて、「やさしい日本語」と多言語での情報発信を行い、日本語学習支援と情報提供の充実が必要と感じています。 また、安定的に日本語教室を運営していくためには、ボランティアの方を始めとする人材の確保が必要であり、今後の課題の一つであると考えています。
今後の予定	アドバイザーやコーディネーター、関係機関等と連携して取り組んできたことにより、在住外国人のニーズの把握や技能実習生受入事業所などとの関係性の構築、教室運営のノウハウを獲得することができました。今後は、3年間で蓄積した経験を生かして、継続して日本語教室の開催をしていきたいと考えています。

本件担当： 宇多津町まちづくり課